

## 令和3年度 事故報告内容

	事例	年齢	要介護度	事故の概要	事故発生場所	原因及び内容	事故発生時の対応	事故再発防止の取組
特養 入所者	事例1	91歳	要介護4	左大腿骨転子部骨折	居室	離床のため、起こそうとすると左足の痛みの訴える。 うまく起き上がれず、ベットの柵やフットボードに衝突、またはベット柵に足が入ったまま起き上がろうとし、負荷がかかった可能性が考えられる。	病院受診	本人の動作の特性を把握し、リスクについてアセスメントを行い、安全な介助方法を職員間で周知する。 ベット柵に足が挟まらないよう、カバーなど設置し対応。
	事例2	93歳	要介護3	胃ろうボタン自己除去	居室	見回り時に、胃ろうボタンを自己抜去しているのを発見。 左側臥位で寝ており、腹巻に血が付着、胃ろうボタンがないため探すと本人のズボンの中から発見。	病院受診	胃ろうを塞ぐ方法で対応し、今後は胃ろうから栄養補給が行えないので、食事についての観察、ケアを行っていく。
	事例3	90歳	要介護4	打撲等	トイレ	職員がトイレに誘導後、脱いだ靴下を外に出そうと離れた際に転倒。	病院受診	トイレ誘導時には付き添い見守り介助、歩行介助時には、身体を支えて移動の継続。
	事例4	90歳	要介護4	打撲等	トイレ	職員がトイレに誘導後、脱いだ靴下を外に出そうと離れた際に転倒。	病院受診	トイレ誘導時には付き添い見守り介助、歩行介助時には、身体を支えて移動の継続。
	事例5	91歳	要介護4	打撲等	居室	「誰か助けて」という声が聞こえたので駆け付けると、壁を背にし右側に傾いた姿勢で尻もちをついているのを発見。	病院受診	衝撃緩和マット、マットセンサーをベットサイドに設置する。 用事のある際は、コール紐を押してもらい説明する。
	事例6	80歳	要介護3	骨折	居室	物音がしたため見回りをすると、尻もちをついて転倒しているのを発見。 靴下をはいており、眠気もあって足元がふらつき転倒したと考えられる。	病院受診	就寝時には、靴下を脱いでから臥床する。 本人の状況に応じて、衝撃緩和マットやPバー、センサーマットの使用等で環境整備を行う。 夜間はコール紐を押してもらい説明する。
	事例7	75歳	要介護3	打撲等	脱衣室	車いすからストレッチャーに移乗する際、ケアワーカーがバランスを崩し、本人と一緒に倒れる。	病院受診	移乗介助時、滑らないようにマットの上で2名で介助し、後ろ側の介助者は本人の身体を支えて移乗する。
	事例8	88歳	要介護5	左上腕骨近位骨折	居室	職員が、オムツ交換の為、車いすからベットに移乗した際、本人の左肩から上腕にかけて熱感と腫れがあることを確認する。 左片麻痺で左上腕拘縮あり。肩関節の可動域が狭く負荷をかけると脱臼、骨折の恐れあり。	病院受診	移乗介助時はバスタオルを使用し、2名で行う。車いすはフルクライニング車いすを使用する。 臥床時は、右側臥位、仰臥位の体位のみとし、左側にセンサーパットを入れる。
	事例9	81歳	要介護1	打撲	食堂等共用部	ソファから立ち上がろうとした際にずり落ち、床で頭を打撲。	病院受診	ふらつき、血圧が高めの際には、ソファではなく、居室のベットで臥床し、念のためマットセンサーを使用する。
	事例10	91歳	要介護5	剥離部分縫合	浴室	入浴の際、ストレッチャー移動時右足がストレッチャーから落ちたため異常がないか確認したところ、右足ふくらはぎ表皮剥離を発見。	病院受診	移乗介護の際には、手足カバーや衣類をつけたまま移乗する。 表皮剥離の可能性が高い利用者及び治療中の利用者であることは、頭に入れて移乗は慎重に行う。
	事例11	96歳	要介護4	打撲等	居室	本人からの足の痛み訴えあり、右足の項に内出血と腫れ確認。車いす使用の際に足を降ろしていることがあり、フットレストと前輪に挟まれた可能性あり。	病院受診	足が落ちないようにフットレストカバーの取付。 移動時には足の位置確認。
	事例12	93歳	要介護1	恥骨、座骨骨折	居室	夕食への声掛け時、居室入り口で転倒しているところ発見。 普段より自立で歩行器歩行可能であったため、その場を離れていた。	病院受診	問題なく歩行はできていたが、普段の様子をさらに把握し、本人が適切に福祉用具を使用できるものか検討、対応方法の検討を行う。
	事例13	94歳	要介護4	裂傷	居室	Pトイレ使用時、下肢筋力が低下しておりPトイレと一緒に転倒したと思われる。	病院受診	トイレに行く際には、本人にコールを押してもらいよう声掛けをする。Pトイレの位置も確認する。
	事例14	75歳	要介護5	右大腿骨頸部骨折	居室	想定される原因は、数日前に右側臥位で下半身がマットの上に落ちて、何かの負荷がかかり骨折した可能性が考えられる。その後、普通どおりに生活していたが、生活動作による負荷がかかり、痛みが強くなってきたと考えられる。	病院受診	ベット上で体動が多くある方は、ベッド柵の保護をしたり、ベッド上での身体の位置に気を付ける。 転落怪我防止のために、ベッドを低床にして衝撃緩和マットをひく。

	事例15	84歳	要介護3	転倒による膝の痛み	廊下	廊下でバランスを崩し転倒したが、その際には身体に異常はなかった。翌日起床時に膝の痛みの訴えがあり病院へ受診したが異常はなかった。	病院受診	ベッド上で体動が多くある方は、ベッド柵の保護をしたり、ベッド上での身体の位置に気を付ける。転落怪我防止のために、ベッドを低床にして衝撃緩和マットをひく。
	事例16	90歳	要介護3	膝骨折	トイレ	一人でトイレに行かれ、車いすの座る際に車いすのブレーキのかかりが甘く、車いすからずり落ちた可能性があると思われる。	病院受診	車いすのブレーキを本人様でもしっかり止められるように使用補助や、福祉用具の点検を行う。トイレに行かれる際には、職員が付き添い見守りや介助を行う。
	事例17	94歳	要介護4	打撲等（今回の診察時に左慢性硬膜下血腫発見のため、手術を行う）	居室	センサー反応があり、ケアワーカーが駆け付けると、両足がベッド上に残り、衝撃緩和マット上に右額部をつけ、身体がベッドと床の間に斜めになった状態となっており、トイレに行こうとバランスを崩したと思われる。	病院受診	日中も夜間同様、横になる際は定期的に見回りをを行い、臥床時にはナースコールを本人の手に持ってもらい、コールを押してもらおう。継続して、マットセンサー及び衝撃緩和マット使用。
	事例18	98歳	要介護3	打撲等	居室	センサー反応があり、訪室するとタンスにもたれかけ尻もちをついているところを発見、左手親指付け根に内出血痕が出来ていた。下肢筋力の低下により、移動時に立位保持が不安定となりバランスを崩したと思われる。	病院受診	Pトイレをベッドにロープで固定し動かないようにする。
	事例19	99歳	要介護4	打撲等	グループエリア	車いすから転倒しているところを発見。離床介護時に、しっかりと座位姿勢の保持ができておらず、転倒した可能性がある。	病院受診	車いす移乗後は姿勢を正し、前傾姿勢や仙骨滑りにならないように注意する。職員の目の届く位置に座ってもらい、座位姿勢を確認し、安全を確保する。
特養 短期入所	事例1	82歳	要介護2	打撲等	廊下	廊下で転倒しているところを発見。他の利用者が入ってきたので、職員に知らせようと、靴を履かず、靴下で廊下に出たのでバランスを崩したと思われる。	病院受診	センサーマットを常時ONで使用し、立ち上がりや入室者の状況を把握する。コール紐を押してもらおうよう説明する。
	事例2	79歳	介護保険申請中	下顎切傷	居室	服の袖に少量の血の付着があり、身体を確認したが痣はなく、マスクを外し顔を確認すると下顎を真横に切っていた。階段を上がろうとして1段目で転倒したと思われる。本人が歩けると思い込んでおり、独歩でどこかに行こうとしたためと思われる。	病院受診	移動する際には、必ず車いすを使用するよう声掛けを行う。
	事例3	94歳	要介護2	打撲	居室	パンツを変えようと歩行器で後ろに進んだ際にバランスを崩し転倒する。起床時すぐだったため、足が思うように動かず転倒したと思われる。	病院受診	起床後、本人に歩行器をもっていただき、付き添い見守り対応で誘導する。
	事例4	94歳	要介護2	打撲	居室	部屋で転倒しているところを発見する。トイレへ行こうとした際に転倒し、頭が痛い訴えがある。枕元の明かりがまぶしく消していたため、足元が見えず靴を履いていなかったためで滑ったと思われる。	病院受診	明かりがすぐにつけられるようにベッド柵に括り、起きた時には明かりをつけて靴を履いてもらうことを就寝時に伝える。また、夜間はPトイレの使用を勧めてみる。
GH 入居者	事例1	89歳	要介護3	左大腿骨頸部骨折	居室	トイレに行こうとしたとき、ベッドから転倒。転倒時、センサーマットの付け忘れ。骨がもろくなることを防ぐ内服薬服用中の為、転倒時の骨折リスクが高い状態であった。	病院受診	臥床後、センサーマットが反応するか確かめる。ヒッププロテクター、靴を本人にあったものに変更する。骨粗しょう症についての勉強会を実施。
	事例2	101歳	要介護2	くも膜下血腫	居室	音がしたので、居室へ行くと部屋の入り口ででんとうしている所を発見。本人は、頭は打っていないと答えるが、苦しいと訴えがあった。	緊急搬送	車いすを手の届くところに配置する。伝え歩きができるように配置を毎回セットする。
	事例3	82歳	要介護3	右大腿骨頸部骨折	食堂等共用部	ふらつきながらソファを右仰臥位の方にて転倒される。職員は清掃中で、本人の様子を見て付き添いに向かったが支えることできなかった。	緊急搬送	眠前薬服用後は職員近くで過ごしてもらおう。歩行時の補助具検討。車いすや歩行器の検討。
	事例4	82歳	要介護5	左肋骨骨折	居室	居室にて就寝更衣介助時に、左胸部から脇にかけて皮下出血があることを発見する。介助時に負荷がかかったと思われる。	病院受診	2人体制で介助を行う。

町外の 施設入 所者	無							
------------------	---	--	--	--	--	--	--	--